

一夏会報



鶴見大学学長
伊藤 克子

月のひかりに寄せて

今年もまた猛暑と豪雨の夏でした。そんな中、皆様は2か月間も予定をやり繰りされ、まるで学生時代に戻ったかのようないえ、それよりも何倍かハードな毎日を過ごされたことでしょうか。本当にご苦労さまでした。この講習を申し込む前、多分皆様の前にはきつといくつかの選択肢があったと思います。その中から、本学の講習を選んでくださって、こうしてご縁が繋がりました。そんな皆様に今回はぜひ鶴見大学のことを紹介させていただきます。

鶴見大学は、曹洞宗大本山總持寺の創設した大学ですから、建学の精神も仏教、禅の教えに置いています。「大覚円成 報恩行持」といいますが、これをすんなりと理解できる人は、おそらく少ないでしょう。そこで前学長は、誰にでも分かりやすいように「感謝を忘れず 真人とする」「感謝のこころ育んで いのち輝く 人となる」という二様の現代語訳を当てました。私もずっと考えているのですが、あげく…一旦この八文字から離れてみたら、いろいろなことが氷解しました。それがこれからお話ししたい「月のひかり」の話です。

その問いかけが自分一人に向かっているのではなく、すべての人がそう問われているのだと気づいた時、それがそのまま仏の心に繋がる第一歩です。大きな慈愛の心です。と言つても、慈愛という言葉も少し抽象的かも知れません。私は、慈愛を目で見えるものにしたとすれば、それは月の光ではないかと思つているのです。そして鶴見大学は、社会にとって月の光のようでありたい、そして大勢の月の光のような学生を育てたい、これが、私の理解した建学の精神です。

20世紀は、科学の世紀でした。科学の進歩によって世界は大きく広がって行き、そこでは太陽のようには明るく強い光を放つリーダーが活躍しました。それに対して21世紀は、スピリチュアルの時代です。外の世界に向けられていた私達の目が内なる世界に向かう…そんな時代がやってきます。

また、月のひかりは、これまででは暗いと思われてきました。確かにルクスでは豆電球よりも暗いらしいのですが、何とんでも天空に点された豆電球です。そのスケールが違います。夜道をひとり歩いていて時なども、お月様は自分が歩く通りについてきてくれます。何だか、上から見守ってくれているように感じます。誰もが自分を照らす自分だけの月のひかりを感じる。これが、私の思う仏の心、大きな慈愛の心です。鶴見大学は、社会の中で、ひとりひとりの人に慈愛の心で向き合える学生を育てなければなりません。集団への奉仕ではなく、誰もが自分に注がれる慈愛のまなざしをキャッチできる、そんなひかりを放てる人です。そして、これこそが、鶴見大学を月のひかりにたえたい由縁です。

太陽は偉大ですが、時には人を消耗させることもあります。対して、穏やかな月のひかりの中には、癒しの力が潜んでいます。仏教や禅に基盤をおく鶴見大学の学風、地味ながらコツコツ努力をする学生の気質、皆を支え、励まし、誰をも見捨てることのない、こんな月のひかりのような学生を育てたい。

總持寺の庭先から、そんな教育を発信できたらし、それが、私の願いです。

世界と日本の図書館活動の事例紹介



鶴見大学司書・司書補講習
主任教授

角田 裕之

修了生の思い出も掲載されており、本講習が多量の有能な図書館学の教育者や図書館員を社会に送り出したことが良く分かります。

さて、ここからは、世界と日本の図書館活動の事例をご紹介します。今年、国際図書館連盟（IFLA）が主催した会議で研究成果を発表するために、アメリカ合衆国ハイオ州コロンバスを訪れました。

次に大学のゼミ合宿で訪れた山梨県立図書館を紹介します。平成二十四年にJR中央本線甲府駅の北口に新築され、図書館サービスについては県職員が担い、付属する施設である駐車場、会議室、イベントスペース、カフェの運営は指定管理者が従事する自治体と民間が連携して運営する図書館です。一階の正面入り口の右手にイベントスペースがあり、定期的に催しが開催され、それにもない図書館の利用者も増えているようです。児童資料コーナーでは、多くの児童書や絵本がありましたが、ひととき目立っているのが「絵本の観覧車」です。これは天井まで届きそうな観覧車が絵本を乗せてゆっくり回転しているのです。丁度、親子の利用者が絵本を楽しもうに選んでいました。展示でも一工夫がとても大切だと実感しました。

司書・司書補講習の講習生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年の講習期間は、猛暑と大雨、そして台風が頻繁に見舞われ天候不順の日が続きました。体調管理にも気を使われた方が多かったのではないのでしょうか。皆様が一夏会報を手にとられている頃は、いくぶん過ぎ易くなっていることと思います。

さて、司書資格を取得するには、必修が十一科目で二二単位、選択が二科目で二単位、合わせて一三科目で二四単位を取得する必要があります。大学や短期大学で司書資格を取得する場合には、

四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、授業時間割も午前九時に始まる一時限から午後四時十分が終わる四時限まで、あるいは、午後五時五十分が終わる五時限まで続くことがあります。特に台風のため授業が休講となったときは、他科目の授業の後に補講が組まれましたので、授業の準備も大変ではなかったでしょうか。本講習を修了するには、盛大な学習意欲、強靱な精神力と体力が必要とされます。

す。講習を無事に受講できたのは、講習生ご自身の努力はもちろんですが、ご家族のご理解やご協力、講習生同士の励まし合いも大きな支えとなったことでしょう。

本講習は一昨年に六十年を迎えました。その折に『鶴見大学司書・司書補講習六十周年記念誌』を刊行しました。元主任教授の岡田靖先生の「日本の司書養成と鶴見大学司書・司書補講習」と、前主任教授の原田智子先生の「鶴見大学司書・司書補講習の六十年間の歩みと将来展望」では、本学が開講するまでの歴史が示されています。また、担当講師や

用されていた。資料の貸出や閲覧サービスだけでなく、平日の夕方にホームワーク・ヘルプ・センターを全ての本分館で開設して子どもたちに自宅学習の場所を提供しています。二つ目は、ハイオ州立大学図書館です。中央館であるトンブソン図書館の他二十六の分館で構成されています。分館のひとつに、マンガ図書館（ビリー・アイルランド・カートゥーン・ライブラリー・アンド・ミュージアム）があります。ウォルト・ディズニの作品やチャールズ・モロー・シュルツの代表作でスヌーピーが登場する「ピーナッツ」の他、多くの作品が展示されています。多数収集されていました。三つ目は、OCLC（オンライン・コンピュター・ライブラリー・センター）です。OCLCは世界最大の級の書誌ユーティリティのひとつです。欧米の洋書の他、日本で出版された和書の書誌データも多数登録され、図書館の目録作成や図書の検索に利用されています。

また、担当講師や

また、担当講師や

また、担当講師や

また、担当講師や

また、担当講師や

最後にになりましたが、講習生の皆様が、図書館や図書等に係る仕事に就かれ、さらにご活躍されますことを期待しております。

図書館とは何かを探索して



中央大学
兼任講師
長谷川 幸代

司書・司書補講習を受講された皆様、長期間に渡りタイトなスケジュールをこなされ、本当にお疲れ様でした。連日、朝から夕方まで受講し、さらに科目ごとに試験やレポートなどがあり、ハードな毎日だったと思います。そんな中、受講生同士で確認し合ったり、休み時間に熱心に質問に答えて下さったりした様子が、今も心に残っています。

講習を担当させていただき、私自身も改めて様々なことについて考える機会となりました。皆様も、受講前と受講後では、図書館に対する印象がだいぶ変わったという方も多いのではないのでしょうか。

そもそも、「図書館」とはどんな場なのでしょう。「図書館概論」の授業でもふれましたが、図書館に対する概念や印象、利用状況は人によって実に様々です。司書・司書補講習を受講された方々は、比較的「図書館」や「本」に対して身近に感じられている方が多いのではないかと思います。しかしながら、サービス対象者全体に対して、実際に図書館を利用している人というのは一部にしか過ぎません。勿論、利用しない人の中には、図書館を

利用する必要性が無いという方もいらっしゃると思います。一方で、図書館は本の閲覧と貸出以外に何を提供しているのかを知らないという方も多いため、これは、図書館によく来ているような利用者にとっても同じです。実際には、図書館で行われているサービスというのは多岐に渡り、非常に有用なものが多く、さらに現場の図書館員のスキルや技術も一般に知られていない以上のものであります。そういったことが知られず、十分に活用されないのは非常に勿体ないことだと、予てから感じ

ていました。特に、レファレンスサービスを知って、こんなことが図書館でできるのかと驚く方が実に多いようです。図書館の重要なサービスであり、インターネットや書店などの差別化を図る大きなポイントにもなります。こういったことが、もつと世の中に認知され、図書館サービスの価値が多くの人に伝わることを願ひ、考えながら授業を行っていました。

最近では、社会状況の変化やそれに伴う制度、運営の目標などの変更に伴い、図書館では「課題解決型サービス」が重要視されるようになってきました。これは、時代のニーズにも対応していますし、何より図書館の情報提供という役割が効果的に発揮できる機会です。さらに、情報だけでなく、図書館という「場」を活用して様々な活動が行いながら、社会が醸成されていくような風潮もあります。例えば、ワクワクするような居心地の良い空間づくり、楽しいイベント

トや魅力的な講演、講座などに力を注ぐ図書館が見られます。従来の堅い図書館のイメージは、かなり変化してきたといつてよいのではないのでしょうか。しかし、これまでの図書館の重要な機能である、蔵書や情報の収集と保存についても忘れてはならないと思います。図書館ならではの伝統的な役割を土台として、時代に沿った新しいサービスが展開されていくことが理想です。また、図書館の大事な機能として、デジタル情報の保存の問題についても「図書館情報資源概論」の授業で取り上げました。映像も一緒に視聴していただきましたが、今後、さらに発展し、問題点も出てくる分野になりそうです。授業では、劣化や消失などの問題があるとお伝えしましたが、ちょうどこの文章を途中まで入力していたら、パソコンの電源が落ちて、修理になってしま

いました。あの授業と映像を思い出し、保存の重要性を身に染みつつ再入力した次第です。最後にありますが、皆様は、個々のサービスや資料、情報について各科目で様々な知識を習得されたと思います。それがどのように役立ち、社会に還元されていくのか、今後図書館で働かれたり、利用者として関わったり、あるいはメディアで図書館について見聞きした際に、少し思いを巡らせていただけたら嬉しく思います。

まいました。あの授業と映像を思い出し、保存の重要性を身に染みつつ再入力した次第です。最後にありますが、皆様は、個々のサービスや資料、情報について各科目で様々な知識を習得されたと思います。それがどのように役立ち、社会に還元されていくのか、今後図書館で働かれたり、利用者として関わったり、あるいはメディアで図書館について見聞きした際に、少し思いを巡らせていただけたら嬉しく思います。



古典籍の魅力を伝える司書に



大 学 教 授
鶴 見 伊 倉 史 人

二ヶ月に及ぶ長い司書

司書補講習が終わりまし
た。資格を取得できて喜ん
でいる方、悔いを残す結果
となった方、それぞれかと
思いますが、皆さんには懸
念に一つのことに取り組
んで過ごした、ひときわ熱
い(暑い)夏となったので
はないでしょうか。

毎年夏になると、中学生
1年生の夏休みに出され
た社会科の宿題のことを
思い出します。長い休みを
怠惰に過ごさせないとい
う教育的配慮だったので
しょうか、日本国憲法を全
文書き写せと言うのです。
野球に夢中だった私は当
然そんな宿題は後回しに

して、二学期が始まる三日

前になってようやく写し
はじめました。今調べてみ
ると、憲法全文でも
一万五千文字あまり、原稿
用紙にして二十六枚の分
量しかありませんが、ペン
ダコが痛んでつらい作業
でした。その後十数年して
研究者となり、古典籍を調
査をするようになってか
ら、写真撮影が許可されて
いない図書館などでは、幾
度となく手で書き写すこ
とをしてきました。その度
に、昔の人たちは本当にた
くさんの本を写し伝えて
くれたと感心し、感謝の気
持ちを抱いてきました。

私が担当する司書補講

習の「図書館の資料」では、

図書館に所蔵される多種
多様な資料のうち、古典籍
の資料としての特徴や古
典籍に関する情報の収集
方法などについて説明し
ています。古典籍と言っ
てもなかなか馴染みがない
ものですから、講義では古
典籍に実際に触れてもら
う時間を設けています。大
きさ、紙質、装訂などは写
真で説明するよりも、実物
を見てもらった方が理解
しやすいかと思えます。

の熱意と苦勞を肌で感じ

取ってもらえたのではな
いかと思います。

受講生の皆さんは今回
はじめて古典籍に触った
ようでしたが、実はとても
多くの古典籍が全国各地
の図書館に伝存していま
す。いったいどれほどの古
典籍が残されているので
しょうか。講義中にもお話
しましたが、国文学研究資
料館の日本古典籍総合目
録データベースには現
時点ですべて約四七万点の古典
籍が登録されています。九
州大学名誉教授の中野三
敏氏は、少なく見積もつて
もその倍の一〇〇万点を
超す古典籍が残っている
と推測されています(『和
本のすすめ』岩波新書・
2011)。こんなにも古
い書物が大量に残されて
いる国は恐らく他にはな
いでしょう。

の熱意と苦勞を肌で感じ

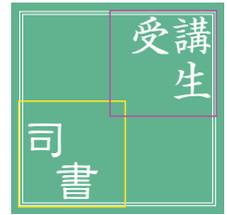
つてしまったのが理由の
1つであることは間違い
ありません。この点につい
ては、やはり中野先生が先
のご著書の中で小学生の
うちにくずし字の読解の
手ほどきをすることを提
唱されています。日本近世
文学会でも、その意を受け
てくずし字読解の普及啓
蒙活動を行っており、「和
本リテラシー」という小冊
子も刊行しています

機会をめたく得たとし
て、その図書館に古典籍が
収蔵されていて、なおかつ
その担当者になることは、
そうそうあることではな
いかもありません。けれど
も、もしそういうチャン
スに恵まれたならば、是非とも
今回の講習で学んだこと
を生かして、利用者に古典
籍の魅力を伝えるような
活動をしていただけたら
と願っています。

(<http://www.kinseibungakukai.com/doc/wabonichiran.html>)。

の熱意と苦勞を肌で感じ



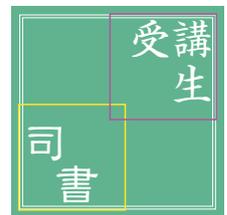


駆け抜けた
日々の中で
小田島 史子

今年の夏は、私にとつて今までに経験のした事のない思い出深い充実した夏となりました。二か月前、図書館司書講習の合格通知を手にした瞬間、嬉しさや喜びを感じた反面、慣れない環境で本当に勉強についていけるだろうかと不安もいっぱいでした。そんな不安いっぱいの中で私の司書講習の夏はスタートしました。学生寮から、ドキドキしながら新しく知り合った寮の皆と共に坂道を歩き第一日目の開講式に向かった日を昨日のこのように思い出します。講習が始まると久しぶりに学生時代に戻ったかのような、講義でびっしりの毎日、学んだ内容はすぐに試験で結果を出さねばならない日々。それは想像していた以上にハードな毎日で、先の見

えない長い道を歩き始めたような感覚がしたのを覚えていきます。しかし、その長い道を進む中で、いつしか講義の感想を語り合い、わからない事を相談できる仲間ができて、初めは一人で歩き始めたその道には共にゴールを目指し進む沢山の仲間がいる事、理解しきれなかった時、先生に質問にくくと休み時間を返上して丁寧な答えを下さる、心強い、先生という応援団が沢山いる事に気が付いてゆきました。頑張っているのは私一人ではない。そう思えた時、道を進む私の歩みは次第に加速し、先生方から学んだ図書館に関する、基礎知識から専門的知識まで沢山の事を吸収しながら気付けばその道を全力で、前だけを見て必死で走っていました。今、ここま

で辿り着くことができたのは励まし支えてくれた共に進む仲間がいます。ここで学んだ事を忘れず図書館司書として大きな一歩を踏み出せるよう、これからも精一杯頑張っていきたいと思っています。二か月間共に寮生活を送りたくさん笑い合っていた寮生の皆さん、本当にありがとうございました。そして、いつも熱心に優しくご指導下さりました先生方、いつも快適な学習環境を維持して下さいました沢山のスタッフの皆さまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。最後に暑い夏を共に過ごした受講生の皆さま、本当にありがとうございました。



司書講習で得たもの、
出会えた人
近藤 弘子

もうすぐ二か月間に及ぶ司書講習が終わりです。短期講習は、時間の確保、体調管理、苦手分野の短期間での習得等大変なこともありましたが、しかし、連続して行われる講義は、得た知識が新鮮なうちに次へと進むため理解しやすく、本来、半年から一年かけて学ぶことをぎゅっと凝縮した四日間(一科目)は、とても密度の濃い時間でした。また、「概論」から「演習」と時間割が構成されていて、理論から実践へと科目間の体系的なつながりも意識して学べたと思います。

講師の先生方は、どの先生からも「図書館や本に対する愛情、情熱」を感じました。(たまたま「好き」が過ぎてマニアックな方面に入っていくことも…笑)そのような先生

の講義は、やはり聞いていて楽しかったです。また、フィールドワークや学会等で国内外各地の図書館を訪れている先生が多く、具体的な事例を見解も交えて紹介していただいたことも面白かったです。受講生の方は、現役の学生の方、すでに図書館で勤務されている方、全く別分野の職種の方等、年代、所属、経験等が多岐にわたっていました。授業中にグループワークや、周囲の座席の人と意見交換をする場が度々設けられましたが、意外な視点からの意見が出たり、知らない世界での体験談が聞けたりと、毎回新たな発見があり、とても興味深かったです。これも興味深かったです。これは、年齢、経験、学習動機等、似た境遇の人が集まりがちな大学の通常

講生 受

補 司書



有り難い夏

佐々木 雅子

今年の夏は、かけがえない人との縁と、学びという宝物を授かった夏となりました。

学校図書館の仕事での疑問や不安が、司書・司書補の学びによって解消され、これまで以上の仕事が出来たのではないかと思います。思い受講を決心、幸いにも受講許可を頂き、私の挑戦の夏が始まりました。片道1時間半の通学路、汗を拭うことも出来ないくらい満員電車。一日の受講を終えて帰宅すれば家事が待っている。講習はものすごい情報量を猛スピードでこなしていくため、先生の言葉を一言も聞き漏らすまいと全身を耳にして立ち向かわねばなりません（そうは言っても時々意識が飛んでいることもありましたが…）。年齢による体力と記憶力の衰え

を感じ「ああ、私は何て大変なの！」と、始めの頃は思っていました。ところが同じクラスの講習生の方々と交流が増えるにつれ、皆さんそれぞれに背負うものやご苦労がある中で日々の講習をこなしてらっしゃるのだと知り、自分の甘さに恥じ入りました。そして皆さんの頑張り励まされて気持ち強く持つことが出来ました。

講習は先生方の愛情あふれる資料と講義から、とても多くの学びを得たと実感出来ました。一科目ごとに終えた時の達成感は何とも言えぬものでした（単位が取れたか否かは別として）。先生方の愛情の形にも色々あり、次の科目の先生はどんな方でどんな講義になるのだろうかとうとうと楽しみでし

た。図書館の、成長に

わった人々や事柄を知り、未来の可能性を考える。図書館員として必要な、仕事に向き合う姿勢とスキルとはどういうものか。初めて出会う資料たち。本当に盛りだくさんの講習内容でした。特に印象に残っているのは「図書館員はサービスマン」という言葉です。人が人のために図書館をつくるのだと言うことを常に心に留めて、成長し続ける図書館のことをこれからも学んでいきたいと思っています。

最後にになりましたが、講師の先生方、事務局、警備、清掃員の皆様へ、そして我が家族へ、生涯忘れられない一夏を授けて頂きましたこと心から感謝を申し上げます。有り難うございました。

うございました。

講生 受

補 司書



『これから実をつけていく』

田村 佳代

過ぎてみれば、あつという間だったと言えますが、私はこの一ヶ月半充実にしていました。同時にとても険しい日々でした。司書補講習を受けようと思ったのが、5月で1日90分を4回の授業を座って聞くのを慣れる所からの始まりでした。一緒に授業を受けた方々は、やはり同じ目標を持つ仲間として普段は全然違う生活を送っているも、真剣さはクラス中に毎日ひしひしと伝わってきて何度もレポートや試験勉強に追われて、ざらざらとした苦い気持ちを、その度にまた集中する様に向けてくれました。クラスの中には遠い所から通ってくる方や、授業がない日は仕事をし

ている方もいて皆さん、それぞれに大変だったんだらうと思います。全員で晴れて合格出来ていればうれしいです。公共図書館で働き始めて三年が経ちました。図書館へ行く行為が好きで何となく良いかなと思っただけで、きつかけとしては、強い思い入れがあつた訳ではありませんが今は、これから長く働いていきたいと思えますし何より、とても楽しいです。先生方の熱心な授業で、今まで理解していなかった事が分かったり、ほんの一部しか知らなかった図書館サービスについても知れたり、これから社会で図書館や図書館員に求められている事を考えさせてもらえました。授業の後もしっかりフォローしてくださる先生方にはお世

話になりました。そして私を司書補講習の参加に勧めてくれたのは、同じ図書館で働いていた上司でした。不安がともありました。が、背中を押して頂いて嬉しく思います。今は異動されてしまいましたが、いつかまた一緒に働いてみたいと思います。今は、講習が終わった達成感でいっぱいですが、せっかくなのでこの一ヶ月半の間に学んだ1つ1つをこれから、じっくりと熟して実をつけていくように励んでいきたいと思えます。そしてまた経験を積んで鶴見大学に司書の講習を受けたいと思います。先生方、事務局の方、そしてクラスの皆様ありがとうございました。

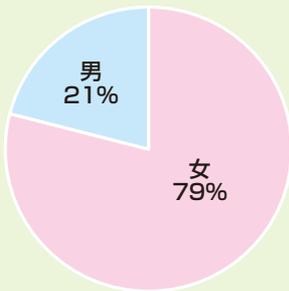
がありがとうございました。

アンケート

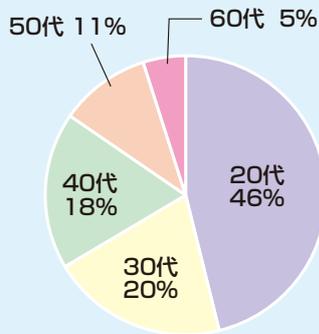
◆平成28年度司書講習アンケート集計結果◆

(回答数/受講数=90名/143名)

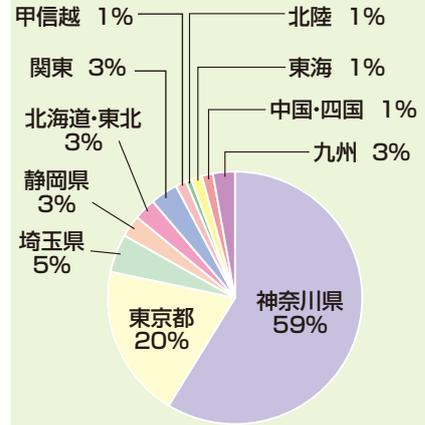
男女別データ



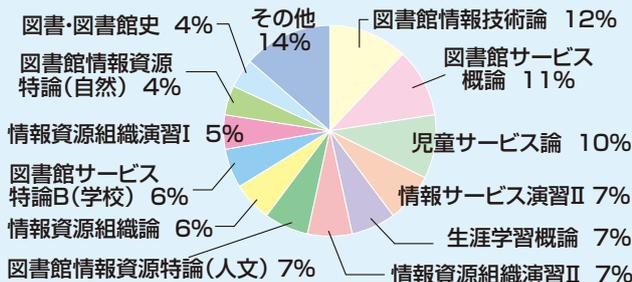
年齢別データ



出身県別データ



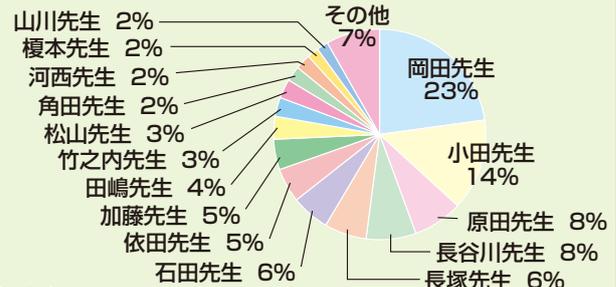
印象に残った科目(複数回答)



●主な理由

- ・図書館情報技術論… 図書館と情報技術の関係性が学べた。
- ・図書館サービス概論… 図書館の知識がない中で、必要となる専門用語と実践を学ぶことができました。テストが終わった後の授業は分からない所、間違った所について確認が出来て、とても理解しやすかったです。
- ・児童サービス論… 読み聞かせの実習がとてもおもしろかったです。緊張はしましたが、子供たちの前で話しているような感じで、相手に読み聞かせすることができました。
- ・情報サービス演習II… 課題をこなすのが本当に大変でしたが、周りの受講生の方々とはげましながら頑張って終わらせました。課題を提出した後は達成感を味わいました。

印象に残った講師(複数回答)



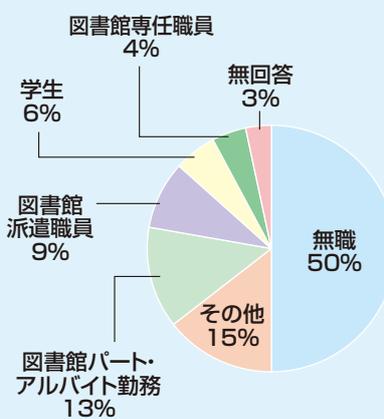
●主な理由

- ・岡田先生… 温かみを感じました。1時間分だけ演習時間として、目録・分類を学びました。おかげで実際の演習授業で取り組みやすかったです。
- ・小田先生… 他の科目内容も含めての講義だったので、後々役に立ちました。
- ・原田先生… 又、おススメの本や個人体験談など、面白い話も聞けて楽しかったです。いろいろな体験、経験を交えてお話してくださったおかげで、広い視野で図書館を見ることができるようになりました。良い刺激をたくさんいただきました。
- ・長谷川先生… ゆっくりしたペースで進めて頂いて、とてもわかりやすかったです。資料もしっかりと作って下さり、助かりました。

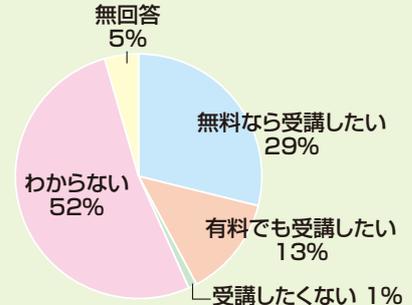
感想

- ・たくさんのお話を学びました。色々な個性の講師の方と、図書館についてさまざまな角度で学べたことは、大変貴重な経験でした。私はまだ、図書館で働いていないのですが、この経験を活かして、司書として精進していきたいと思います。ありがとうございます。
- ・施設が駅から近く、通うのにとても助かりました。きれいで食事ができる場所も多く、使いやすかったです。
- ・先生方はとても優しく、楽しく通学できました。体力的にキツイ時もありましたが、勉強は面白かったです。
- ・体力的には辛かったですが、有意義な夏を過ごせたと思います。
- ・図書館に鶴見大学のマスコットのつるたんつるまんが置いてあったのがとても印象的でした。
- ・OA 研修室は施設・設備ともに綺麗と整っていたので、良い環境だったと感じています。
- ・最後の1週間のスケジュールはとても忙しかったです。心も体もつかれていて、本当に大変でした。
- ・学んだ知識を活かしながら、図書館のお仕事に就けたら良いと思います。

職業別データ



リカレント講座の受講について



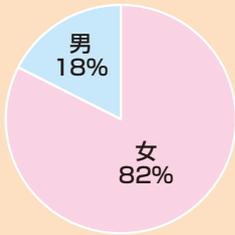
●主な理由

- ・無料なら受講したい… 具体的にどんな講座なのか分からないが、充実していて自分に合っているなら、受講したいと思う。
- ・有料でも受講したい… この講習で考えていた以上に図書館業務の奥深さを知り、司書の職務について更に興味と興味を持ったので、チャンスがあれば受講したいです。
- ・わからない… まだ、図書館で働いていないので、勤めることができるようになったときに考えたい。

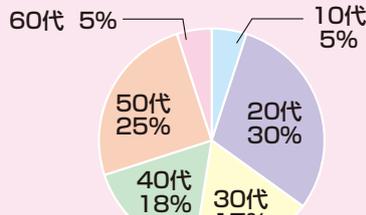
アンケート

◆平成28年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=30名/40名)

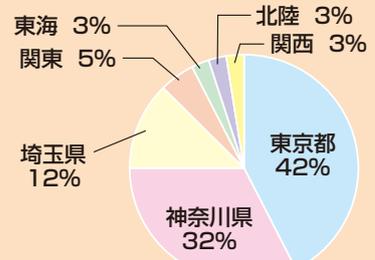
男女別データ



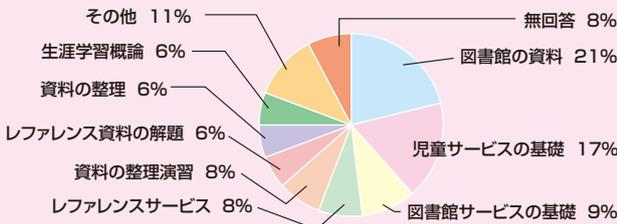
年齢別データ



出身県別データ



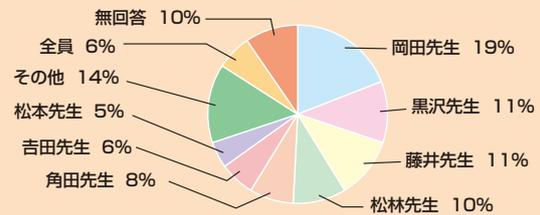
印象に残った科目(複数回答)



●主な理由

- ・図書館の資料…講義の流れ(速さ)がゆっくり、進行がユニークで面白く、興味深かったです。とても印象に残っています。
- ・児童サービスの基礎…絵本の奥深さを感じました。受講してから絵本への想いが180度変わりました。
- ・図書館サービスの基礎…スピード感のある講義で、聞きもろしの無いよう、全身が耳になったような気持ちで取り組んでいました。併せて、内容も現場の興味深いお話しがたくさんあって、楽しい学びの時間だったと感じています。

印象に残った講師(複数回答)



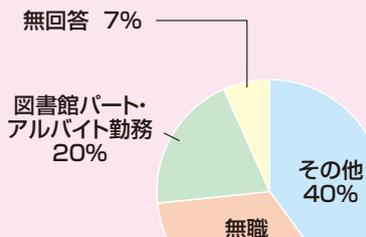
●主な理由

- ・岡田先生…授業の流れや教え方がとても分かりやすく一つ一つ理解をしながら授業を受けることができました。何より先生の明るく大きな人柄が受講してとても楽しかったです。
- ・黒沢先生…話のところで、現場の話しをしてくれる。それが、とてもおもしろかったです。もっと先生に質問したかったです。
- ・藤井先生…質問をしたら、しっかりとその質問の回答に沿うような新聞記事まであとから渡してもらいました。丁寧に授業を進めていただき、うれしかったです。
- ・松林先生…講義中の雑談が引きつけられました。目からウロコのお話ばかりでした。

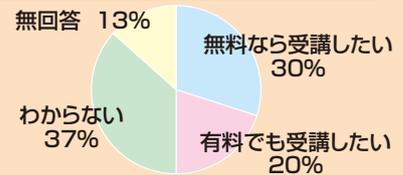
感想

- ・始まる前は、たったの1ヵ月半だと軽く思っていたのですが、いざ始まってみると想像以上にハードな毎日でした。でもとても濃く、とても充実した1ヵ月半でした。
- ・司書補講習を受講するのに大変不安がありましたが、最初に授業を受けた時から鶴見大学で司書補講習を受けられたことを誇りに思っています。ありがとうございました。
- ・図書館は広くてたくさんの蔵書があっておどろきました。施設内もきれいでもう少し図書館で過ごしたかったです。
- ・素晴らしい先生が多く、図書館も充実していて、鶴見大学で受講する事ができて本当に良かったと感じています。今後も、各先生の授業の資料等を見返したりして、さらに知識を深めていきたいと思えます。
- ・資格が無くとも働ける仕事が増えていますが、専門的に勉強をしたい、自分の幅を広げたいと思い、スタートした講習、仕事と両立しながら、全く休みのない約2ヶ月…図書館の勉強だけでなく、様々な年齢層・地域・職種の方が集まるクラスでの学びは、得るものが多かったです。

職業別データ



リカレント講座の受講について



●主な理由

- ・無料なら受講したい…収入の見込みがわからないので、無料だと助かります。
- ・有料でも受講したい…新しい情報や自分のスキルアップのためにも受講したい。これからも継続的に学んでいきたい。
- ・わからない…司書補でもついていけるレベルのものでしたら、受講を検討したいです。時間があれば、とも思うが、内容にもよるといった具合です。

■ 司書・司書補講習の歩み ■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)に開講しました。その間、著名な多くの先生方のご指導の下、優秀な修了生を輩出し、本学の講習は成長してまいりました。そして、開設時の昭和29年に講習生の会として「一夏会」が発足したのがこの会報の由来となっております。

平成9年には大会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。約60台のパソコンからなるOA研修室や80万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている本学図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りに今後ますますの発展を期して努力してまいります。

【司書・司書補講習受講生の皆様へ】

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。皆様のご意見を参考に、今後もより良い講習にしてゆきたいと思っております。また、この「一夏会報」を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生並びに受講生の方々に深く感謝申し上げます。

真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れ様でした。